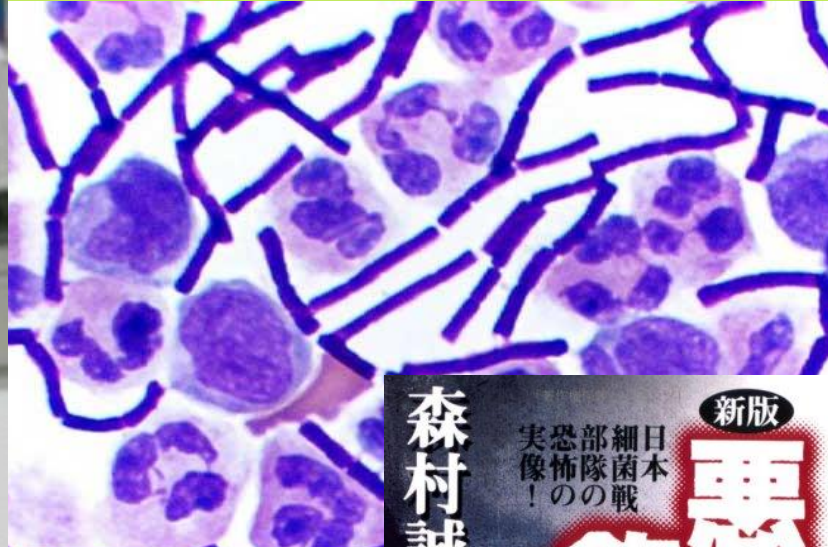


The Ebola Virus

100 million of these virus, the causative agent of a severe form of viral hemorrhagic fever in human with a 50-90% fatality rate. The Ebola virus is 80-1000 nm diameter and up to 1400 nm long. It contains both enveloped proteins (inner shell) and structural (outer shell). The model is based on X-ray analysis, EMR spectroscopy, and general structural data published in the last few decades.

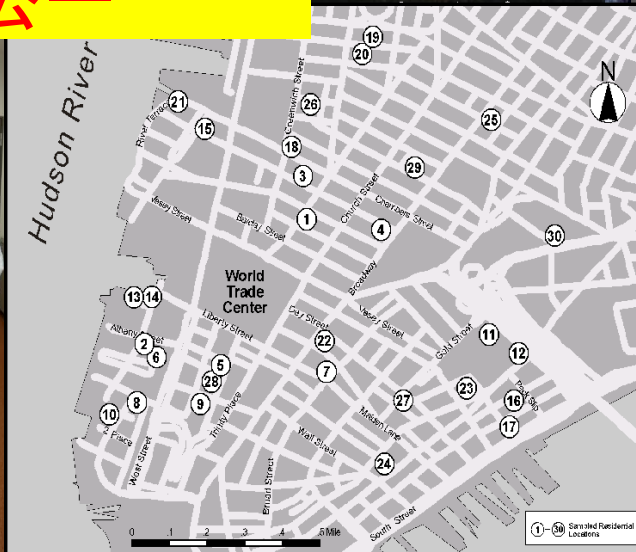
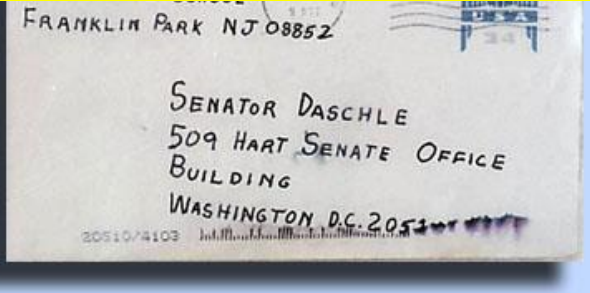
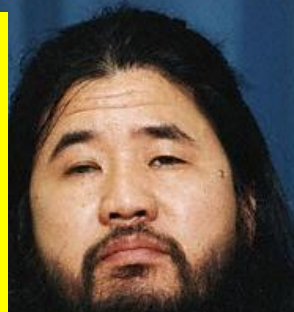
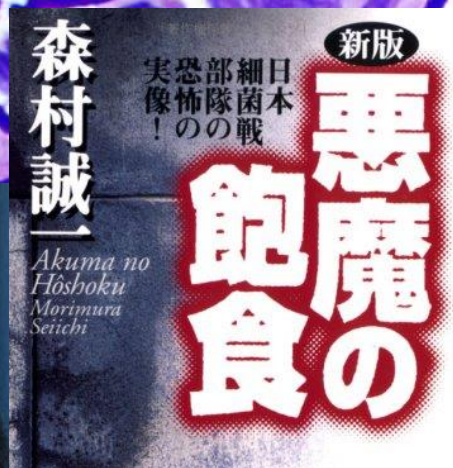


9-11
was an
INSIDE



微生物と人間社会

医学科提供 全学モジュール I 科目
臨床感染症学 泉川公一



君なら、どう悪用する？

- ✓テロリストになったつもりで
- ✓何(微生物)を
- ✓どう使用して(感染させて)
- ✓ダメージを与えるか？

グループ8

悪用する側

阻止する側





バイオテロを引き起こすもの

- ▶炭疽
- ▶痘瘡ウイルス
- ▶ペスト等

国際社会を理解するための 多様な視点

責任部局 国際教育リエゾン機構

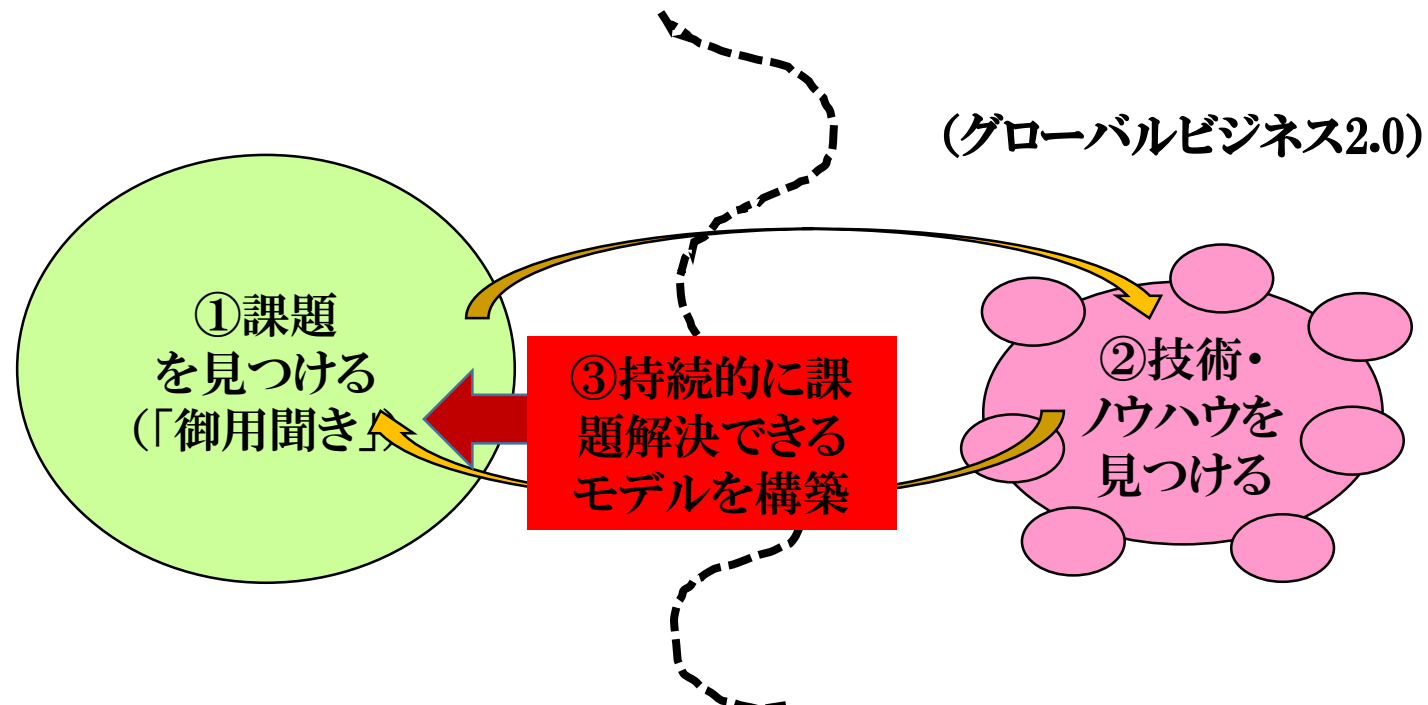
テーマ責任者 松島大輔

趣旨

このモジュールは、将来、グローバル社会で活躍を目指す学生が有すべき基本的な素養を、長崎の知の蓄積を基盤として教授することを目的とします。長崎は江戸時代以降、世界に開かれた歴史を有し、海外からの知はこの地を経由して日本にもたらされました。この経験知を共通の基盤として、国際関係を理解するための基礎知識(モジュールⅠ)、グローバル社会の舞台である国際的なビジネス分野、政府や国際機関等の公的分野、NPOやNGOによる民間分野において、どのような活動がなされるのか、そのためにはどのような資質が必要とされるのか(モジュールⅡ)、あるいはグローバル社会での活動の意義といったより基礎的な知識を皆さんと共有します。未知の大海に打って出ようとする気概のある皆さんの受講をお待ちしています。

求める学生像

「国境を越えた」という言葉でなく、国境という概念自体を意識することなく、社会で活躍する人材を育成する、との目的でこのモジュールは目指しています。そこでは単に英語や外国語能力が求められるのではなく、しっかりとした目標を持ち、そのための基礎的な知識や素養をしっかりと身につけておかなければなりません。その上で、高いコミュニケーション能力、すなわち自らの考えをしっかりと相手に伝える力を持つことが必要です。このような意識を有する皆さんの受講をお待ちしています。



科目名	担当者名	概要	キーワード
東西文化交流の歴史	山下 龍	この講義は、長崎を基点とする東洋と西洋の「知的交流の歴史」(Cross Intellectual History)をほりさげ、国際交流における文化的・歴史的側面を理解し、国際人としての教養に基づいた態度と倫理の形成をはかろうとするものです。講義は自主性と思考力、判断力と表現力を尊重します。	東西文化交流 日欧交渉史 長崎学、知性史 異文化接触
国際的視点に立った法と政治	嶋野 武志	人間が集団生活を営むためには、様々な決まりやルール、即ち法を定めておかなければ、紛争が多発してしまいます。しかも、20世紀に比べ、あらゆる面で国際的な交流が増加している21世紀においては、自国の法だけでなく、異なる歴史・文化を持つ他の国・地域の人たちの法についても、基礎的な知識が欠かせません。この科目では、そもそも法とは何かを学んだ上で、他の国・地域の法、国際的なルールである国際法などを概観するとともに、そうした法を生み出す背景としての政治についても考えます。	法 法の背景としての歴史・文化 法を生み出す政治
グローバル人材へのリテラシー～グローバル人材2.0～	松島 大輔	現代社会におけるグローバル化の意味と将来の就職を考える時、コミュニケーションに必要な情報源の質・量と、そして伝達手段としての言葉や技術の修得が必要最低限となる(語学力・コミュニケーション力)。情報氾濫の時代、限られた時間と空間の中で、自然科学、社会科学、人文科学の諸学を実践的な教養として俯瞰し、長崎を足場にしたグローバル化の実践例を多面的に学ぶ。これが今必要とされる真のグローバル人材(バージョン2.0)であり、そのリテラシーを磨こうではないか。	グローバル人材2.0、教養、実践知、プレゼンテーション、トランスナショナル、グローバルイノベーション

カテゴリー 多様性と共生

全学モジュール I 科目

テーマ 16-A1

現代経済と企業活動

対象学部：多文化社会学部・教育学部・薬学部・水産学部

※経済学部の学生は履修できません

現代経済と企業活動

趣旨：現代経済の仕組みを、原理や制度、歴史的変遷、国や地域との比較等を通じて考察し、複眼的で幅広い視点を獲得

経済活動と
社会

経済



企業



企業の仕
組みと行動

政府



経済政策と
公共部門

3名の経済学部教員が担当します

経済政策と公共部門

第3クォーター(10~11月)月曜

担当教員:工藤 健

市場で価格や取引量はどうか決まるか？

市場や政府は環境破壊を食い止められるか？

政府はどのようなサービスを提供すべきか？

政府はどのように景気循環を安定化させるか？

財政政策の効果をどのように分析するか？

価格メカニズム

市場の効率性

市場の失敗

政府の役割

財政政策

We
b課
題

グル
ー
プ学
習

講義

演
習

グル
ー
プ・ディス
カッション

企業の仕組みと行動

第3クォーター(10~11月)火曜

担当教員:宇都宮 譲

なぜ企業はたいてい株式会社か？

所有と経営の分離

株式会社

科学的管理法

大きくなった企業がどうやって意思決定するのか？

統計的品質管理

品質保証

なぜ管理が必要か？

労働生産性

自然環境に負荷を与えないように何をすべきか？

主に
講義

経済活動と社会

第4クォーター(12~2月)火曜

担当教員:高木かおる

GDP(国内総生産)とはなにか？

GDP

豊かさ指標

豊かさをGDPで測れるのか？

豊かな社会

GDPに代わる指標はないか？

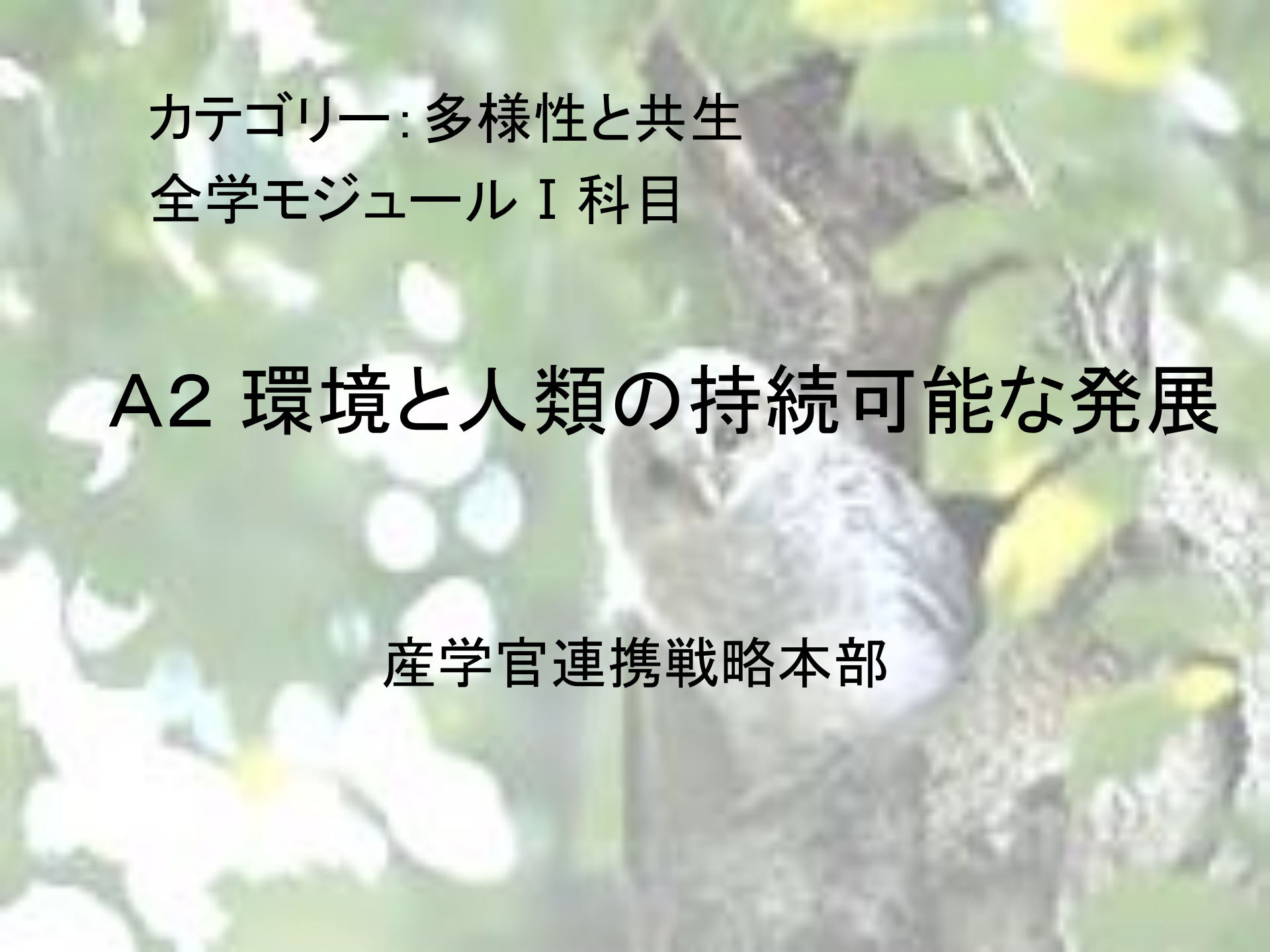
豊かさ指標は必要か？

グループ学習

演習

講義

グループ・ディスカッション



カテゴリー: 多様性と共生
全学モジュール I 科目

A2 環境と人類の持続可能な発展

産学官連携戦略本部

本モジュールで学ぶこと

目的: 人類の持続可能な発展 (**sustainable development, SD**) の実現

学ぶこと:

- 環境問題の基本的考え方や国際環境法の特徴・理念・精神など
- 「環境基本法」と進むべき方向や取るべき行動
- 国内の環境関連法

具体的な学習内容

国際環境法（環境問題と国際環境法）

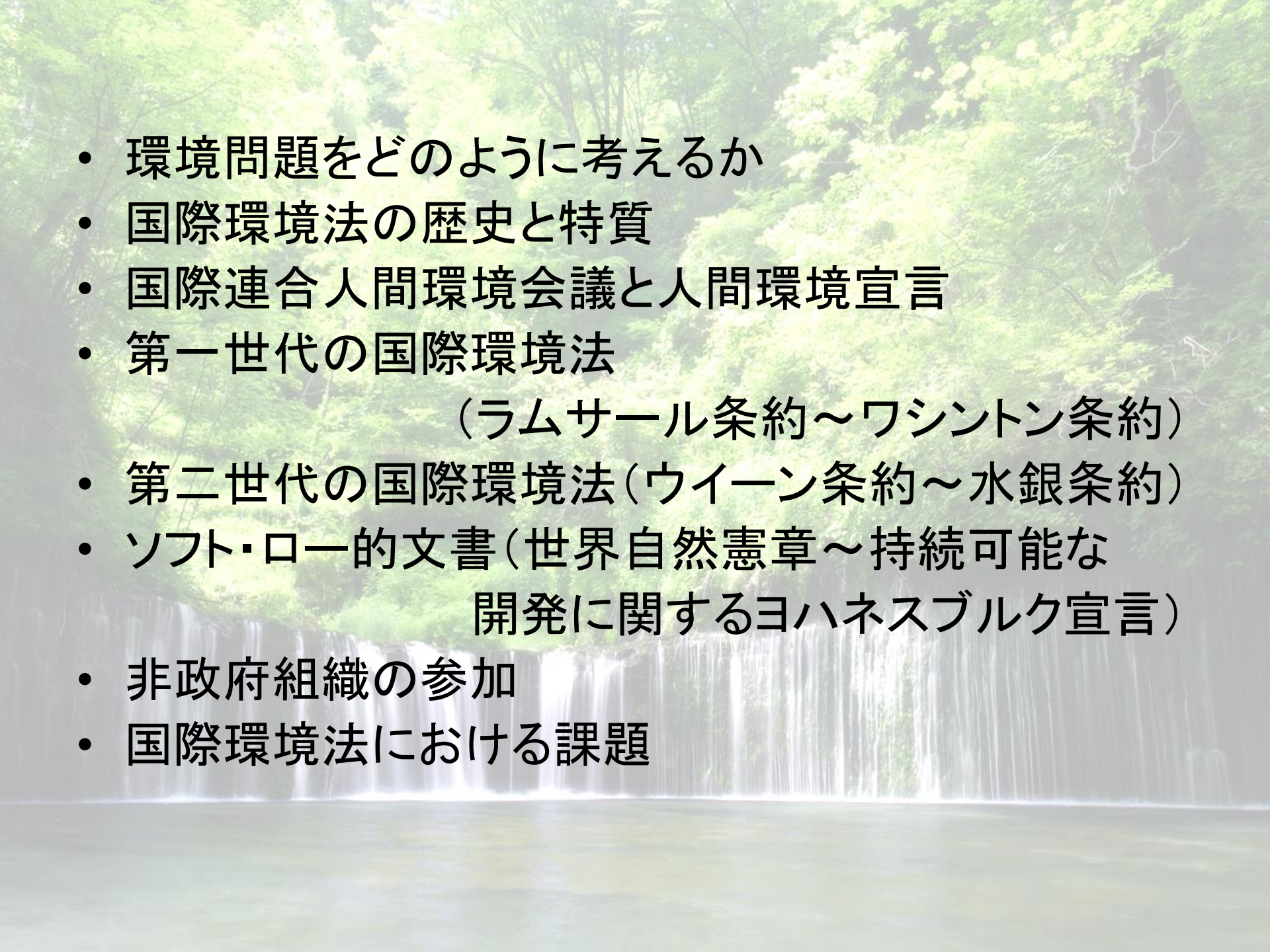
国内環境法Ⅰ（環境基本法他）

国内環境法Ⅱ（環境関連法）

国際環境法

- 環境問題に対する考え方
- 国際環境法の歴史と特質
- 国際環境法の概要

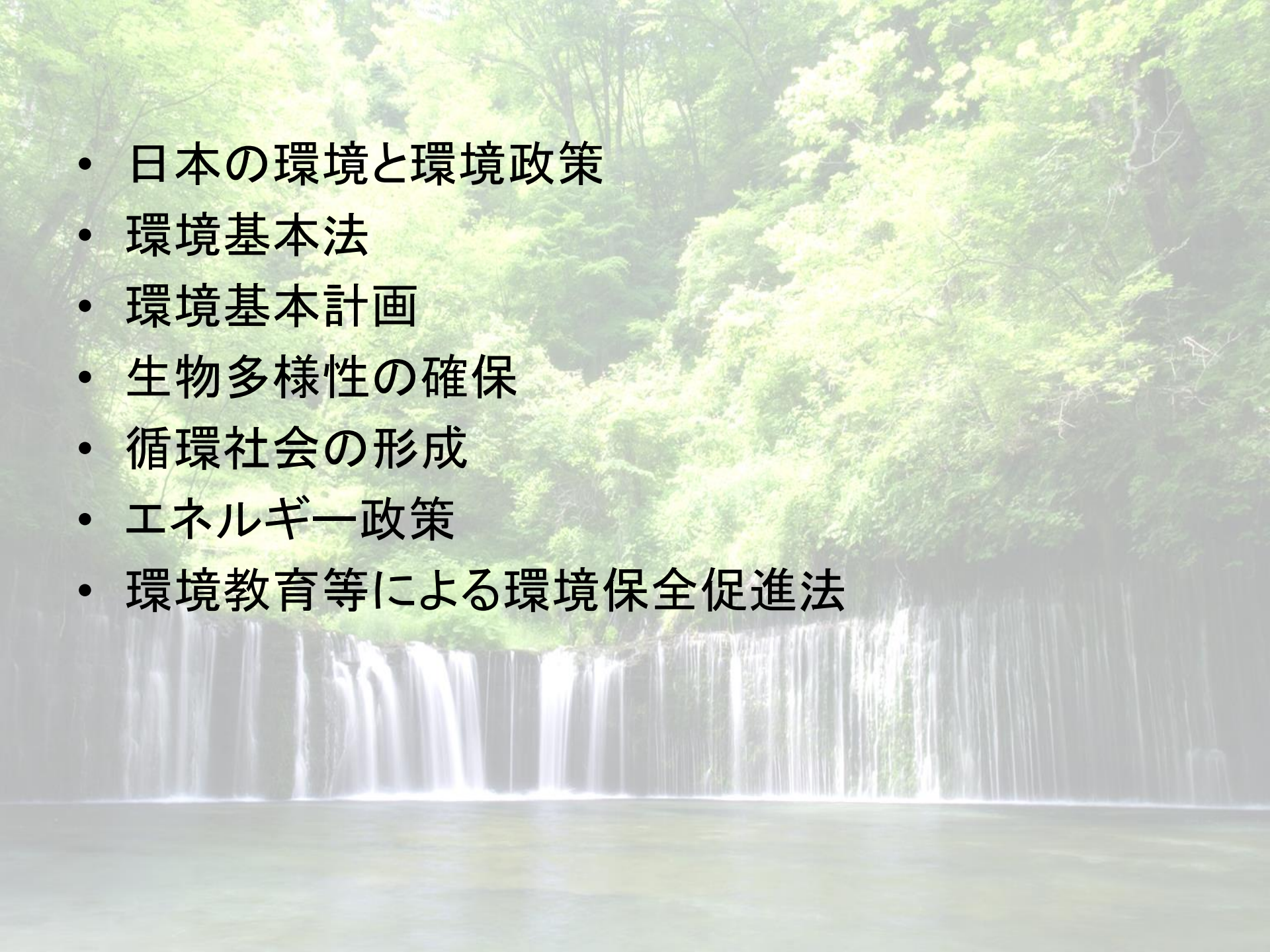
環境問題の基本的考え方や国際環境法の
理念・精神について理解を深める。

- 
- 環境問題をどのように考えるか
 - 国際環境法の歴史と特質
 - 国際連合人間環境会議と人間環境宣言
 - 第一世代の国際環境法
(ラムサール条約～ワシントン条約)
 - 第二世代の国際環境法(ウィーン条約～水銀条約)
 - ソフト・ロー的文書(世界自然憲章～持続可能な
開発に関するヨハネスブルク宣言)
 - 非政府組織の参加
 - 国際環境法における課題

国内環境法 I

- 国内の環境問題と対策および歴史
- 国際環境法との関係
- 「環境基本法」等

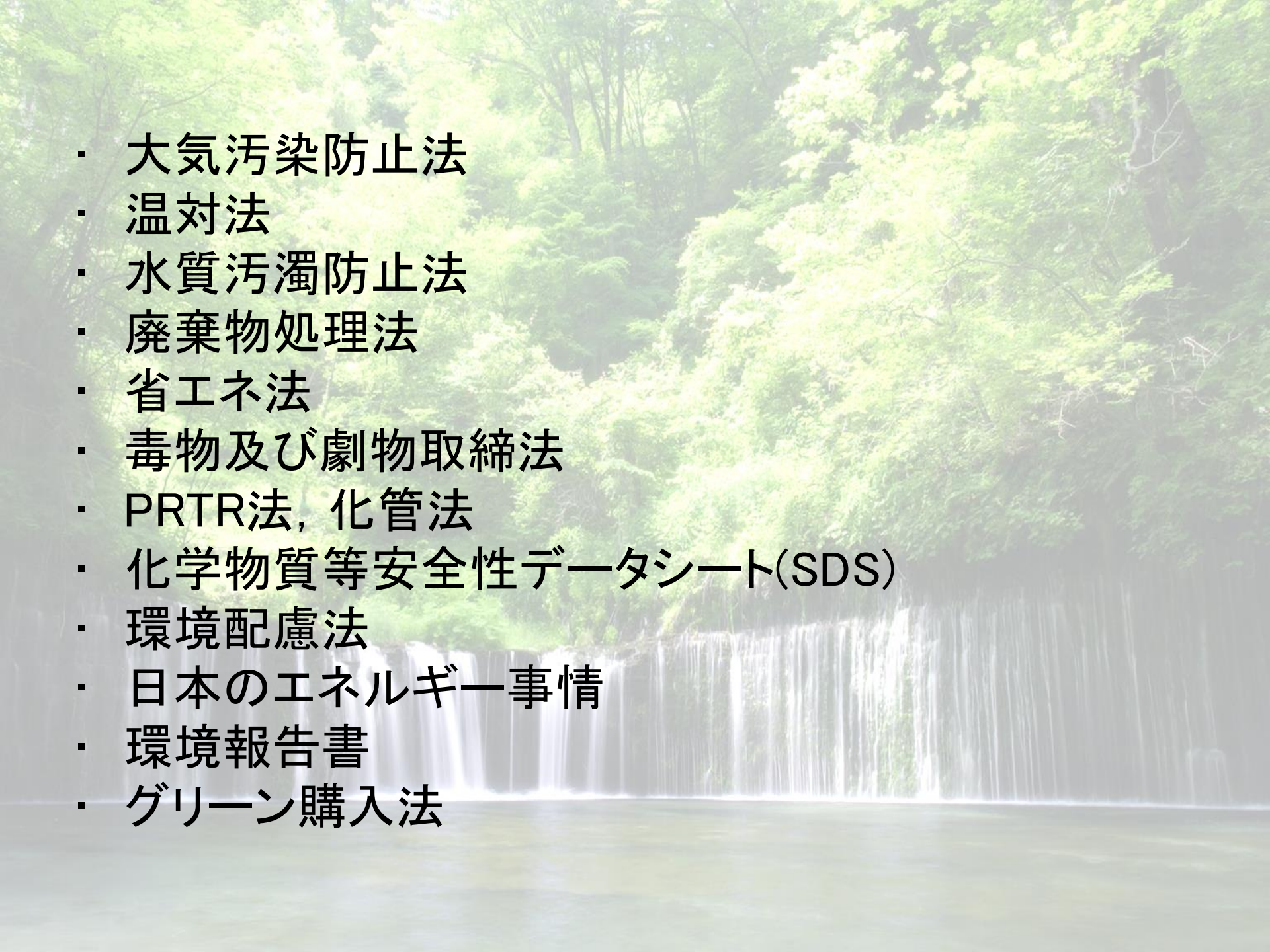
環境に関する我が国の基本的考え方を理解し、
我々が進むべき方向や取るべき行動等について理解を深める。

- 
- 日本の環境と環境政策
 - 環境基本法
 - 環境基本計画
 - 生物多様性の確保
 - 循環社会の形成
 - エネルギー政策
 - 環境教育等による環境保全促進法

国内環境法Ⅱ

- 国内の環境関連法等
- 環境報告書と環境コミュニケーション
- 日本のエネルギー事情


国内の環境関連法を理解するとともに、
環境コミュニケーションの重要性
について理解を深める。

- 
- A lush green forest with a waterfall in the background. The waterfall is in the lower right, cascading down a rocky ledge into a pool of water. The forest is dense with various shades of green foliage. The overall scene is bright and natural.
- ・ 大気汚染防止法
 - ・ 温対法
 - ・ 水質汚濁防止法
 - ・ 廃棄物処理法
 - ・ 省エネ法
 - ・ 毒物及び劇物取締法
 - ・ PRTR法, 化管法
 - ・ 化学物質等安全性データシート(SDS)
 - ・ 環境配慮法
 - ・ 日本のエネルギー事情
 - ・ 環境報告書
 - ・ グリーン購入法

日本を知り、世界を知る

全学モジュールI科目

対象学部:教育学部・経済学部・薬学部・水産学部



趣旨と到達目標

- ◆ グローバル化の影響 → 多文化共生社会の進展
- ◆ 空間＝日本、アジア、欧米、世界
- ◆ 視点＝文化、歴史、政治、思想、経済、社会、交流
- ◆ 多様な自己を発見することにより、多様な他者への理解を深める
- ◆ 到達目標
 - ・基礎的知識の習得による多文化理解。
 - ・様々な多文化状況に適応する素養と批判的思考力を身につける。

科目担当者

科目名	担当者名	専門分野	キーワード
前近代の日本と世界	佐久間 正	政治思想史	近代・前近代 本土国家、琉球王国 中華帝国 土着・外来・日本化 開国・鎖国
近現代のアジアと日本	中村 則弘	社会学	
人々の暮らしから見る現代日本	野上 建紀	考古学	遺物 近世考古学 陶磁器 伝統産業

学生の皆さんへのメッセージ

「日本を知り、世界を知る」



「自己を省みて、他者を理解する。
「自己を相対化する。」



「知的な営み／必要不可欠な能力」

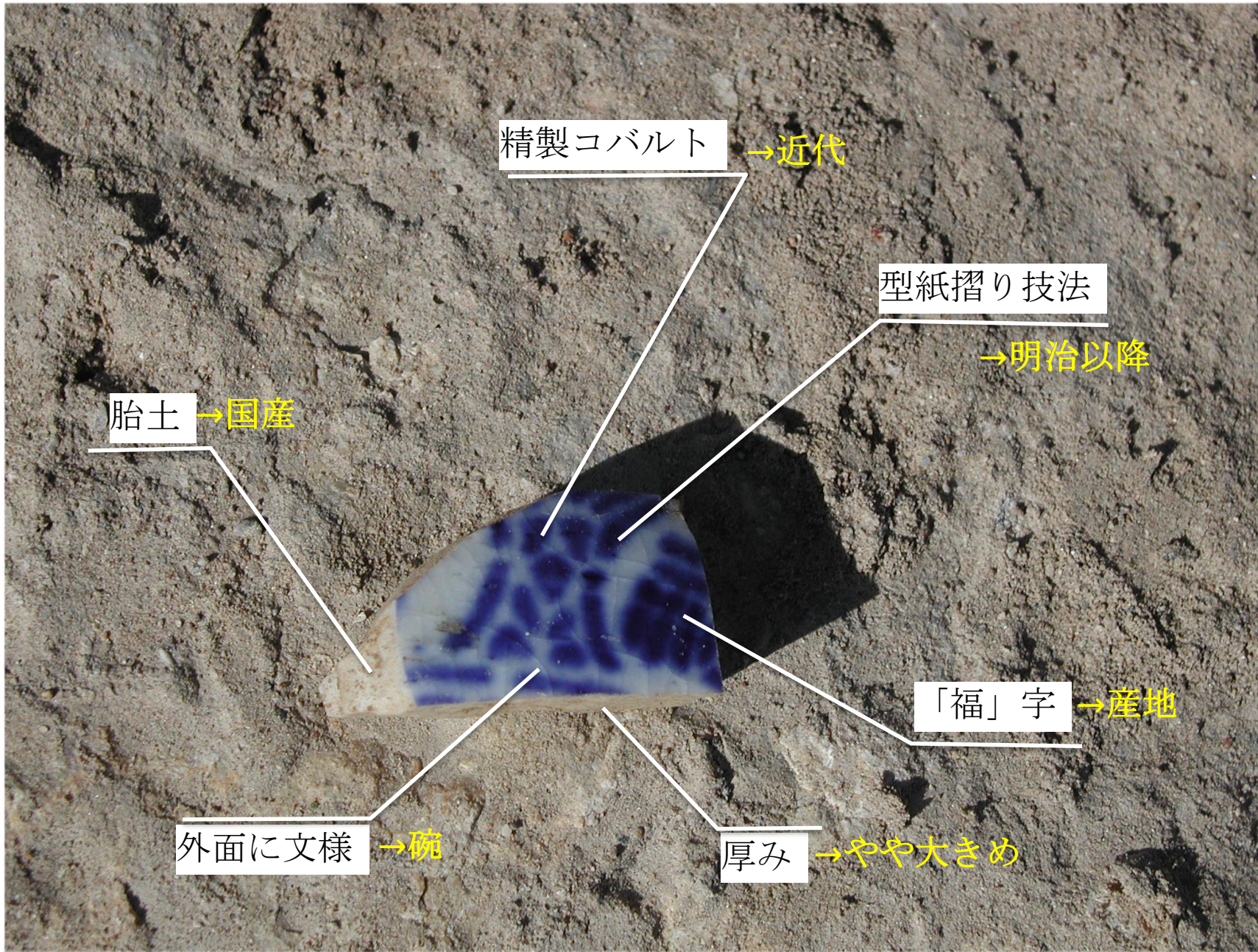
社会的・文化的・言語的に多様性を持つ
様々な組織の一員として、活躍する。

ディバ遺跡発掘調査（アラブ首長国連邦）
2009年1月1日









精製コバルト

→近代

型紙摺り技法

→明治以降

胎土

→国産

「福」字

→産地

外面に文様

→碗

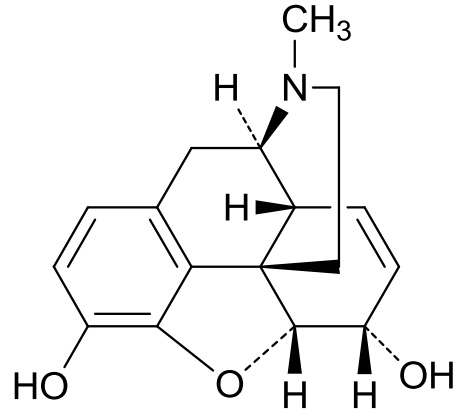
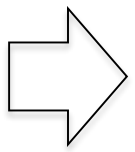
厚み

→やや大きめ

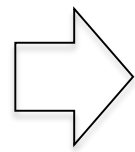
薬と生命科学を理解するための基礎科学



薬学部
教官



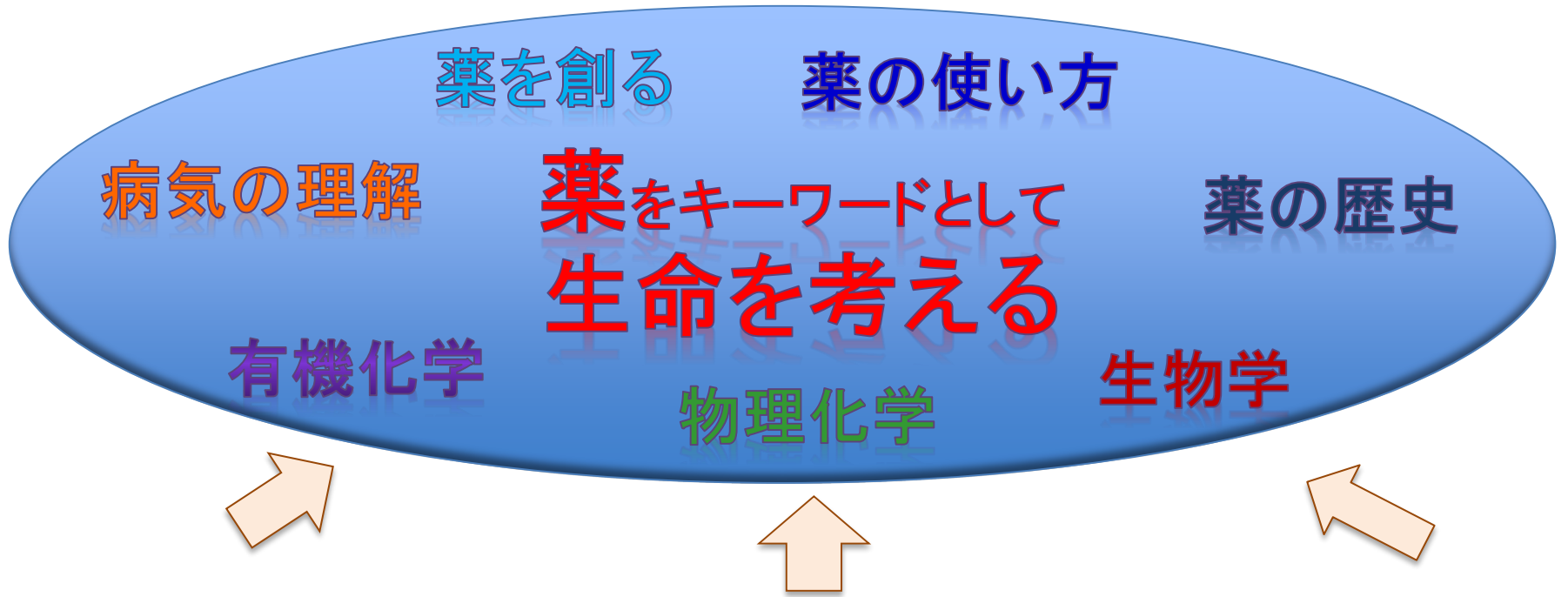
有機化合物



薬 = 毒

DNA(遺伝子)もタンパク質も、そして動物、植物、微生物も、すべて**化学物質**で出来ている。生命は、**物質間の反応**で維持されている。

薬と生命科学を理解するための基礎科学



ビギナーのための
有機化学

元素・炭化水素・官能基・
触媒

ビギナーのための
物理化学

薬毒物の物理的性質と作
用機構、定量・定性分析法

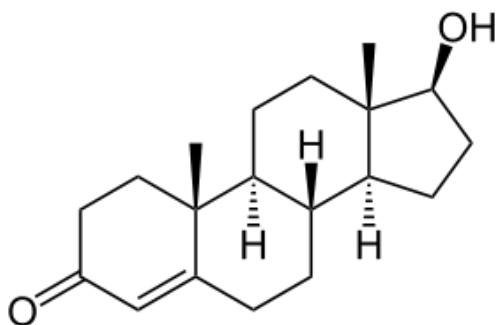
ビギナーのための
生物学

遺伝子・酵素・細胞の機
能、発がんのメカニズム、
創薬研究、診断法開発、
遺伝子治療

ビギナーのための有機化学

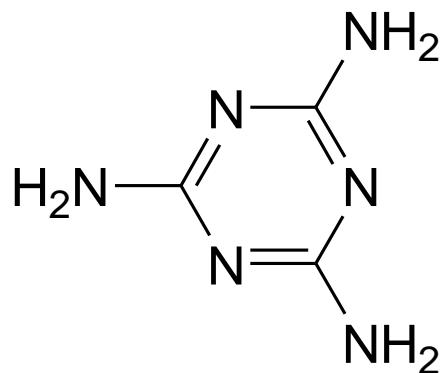
有機化合物は、ヒトの生活に欠かせない衣類、食品、医薬品等様々なものの原料となる。さらに、生命現象も有機化学反応が織りなすものといえる。この講義では、有機化学の基礎を学ぶ事で、生物の営みや自然現象を有機化学の視点から正しく理解し、説明できる力をつけることをねらいとする。

オリンピック ドーピング



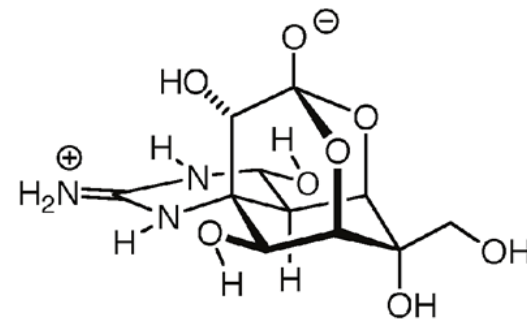
ステロイド

<中華ボイス>金メダルよりも
安全な粉ミルクを！



メラミン

河豚毒



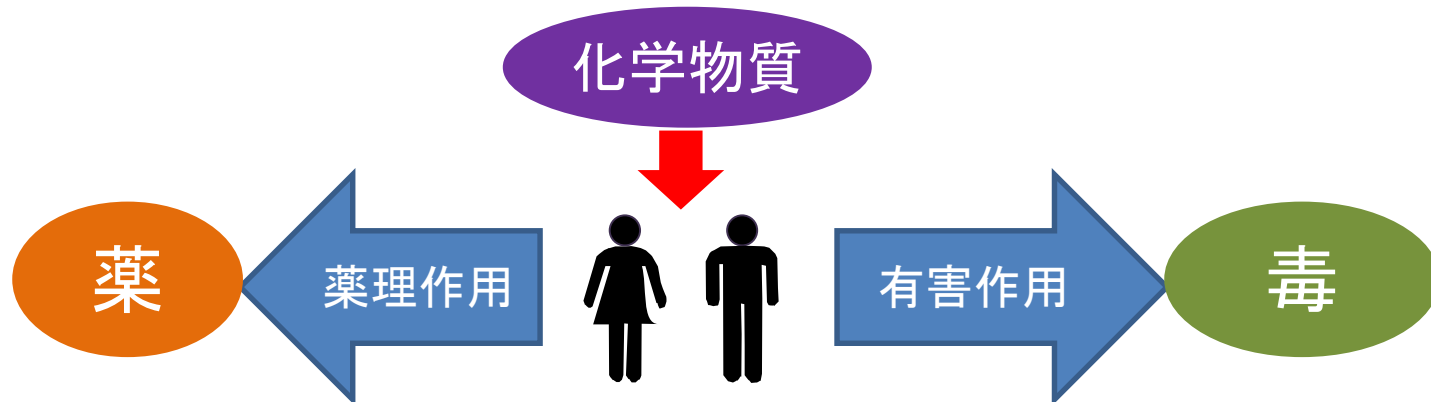
テトロドトキシン

授業方法の特徴：デモ化学実験 & クリッカー利用

ビギナーのための物理化学

生命現象の探求には、生体と種々の化学物質（薬物や毒物、栄養素や環境汚染物質など）との関わりを理解する事が重要である。そのために、物質の状態を数値化し、分子レベルで分子の性質及び化学変化を検証し、論理的に解釈できることが重要である。この講義では、身の回りの事象を例にとり、物理化学の基礎を学ぶ。

私たちの身のまわりにはどのような化学物質があるのか？
また、それは薬なのか毒なのか？



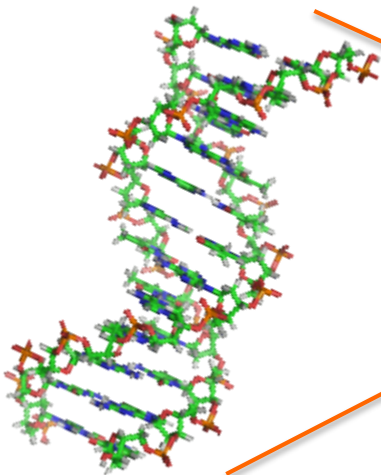
この問題を明らかにするためには、化学物質の性質と量を調べる分析法が重要

授業方法の特徴: スモールグループディスカッション、
プレゼンテーション

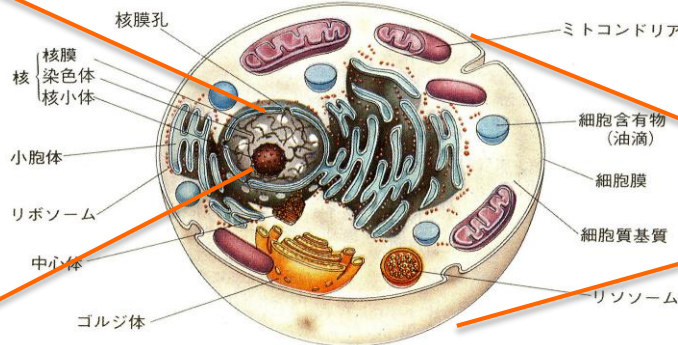
ビギナーのための生物学

生物学の基礎を学び、「遺伝子」と「疾患」との関わりや最先端医薬品(バイオ医薬品)や組換え食品のあり方を理解する。また、それらの知識を基にして、現代社会における課題を抽出してその問題を解決するための演習を行い、自ら学び、考え、主張し行動改革できる能力を養う。

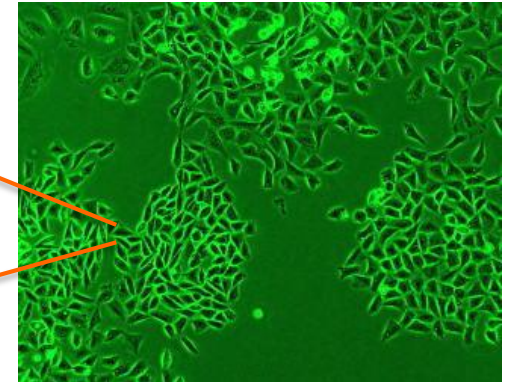
ゲノム DNAの二重らせん



細胞の構造



培養中の 動物細胞



授業方法の特徴: グループ・プレゼンテーション

受講生の学部と薬・生命科学の関連性

水産学部



教育学部

TVに出てくるワード

危険ドラッグ、ペプチド
トランス脂肪酸
iPS細胞、ES細胞

経済学部

医療費(薬)
ジェネリック医薬品
国際的な医薬品開発
特許

多文化社会学部



全学モジュール I 科学/技術の恩恵と限界

「リスク社会を理解する
～医療と健康、社会科学、科学技術～」(16-A5)



現代社会を規定する重要な要素であるリスクについて、その特徴と、これを制御するための取組を、生命、技術、経済の三つの観点から検討する。



医療と健康

「健康と医療の安全・安心」

健康を維持するために日ごろ意識することが何か、医療とのかかわりを正しく理解するために必要な考え方を身につける。また、健康で安心した生活を送るために医療はどのようなかかわりを果たすのかを自ら考え、取り組む意識を育てる。

- ①健康と医療に関する日本のヘルスケアシステムを知る。
- ②自身の健康増進のために何をすべきかを自覚する。
- ③様々な疾病の一般的な知識を獲得する。
- ④グローバルな視点で医療を考えることができる。

医療と健康

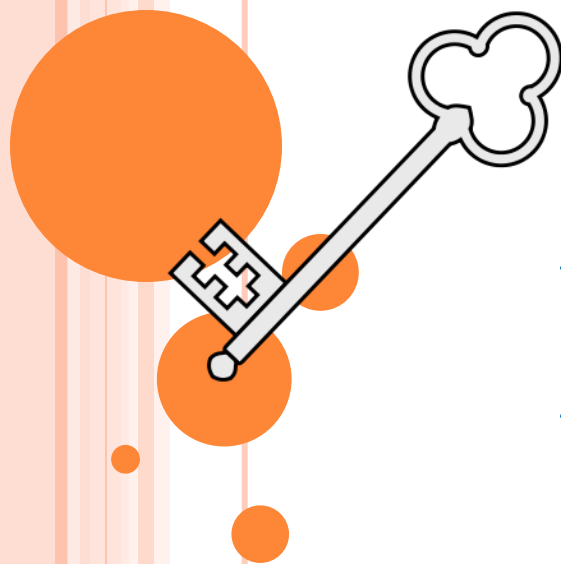
「健康と医療の安全・安心」

Keyword

医療システム

健康増進

様々な疾病



科学技術

「科学と技術の安全・安心」

危険や不安に、どう考え、何をなすべきか、どのように対処するのかを学び、危険や不安のない安全・安心な社会の構築に貢献しうる知識と理解を涵養する。実社会で安全で安心に生活できるような基礎的知識を身につける。

安全・安心な社会を構築するためには、目指すべき安全で安心できる社会のイメージを明確にすることが必要です。安全は、普段は見過ごしがちで、危険や事故に遭遇したときに意識するものですが、普段の取り組みが重要になります。

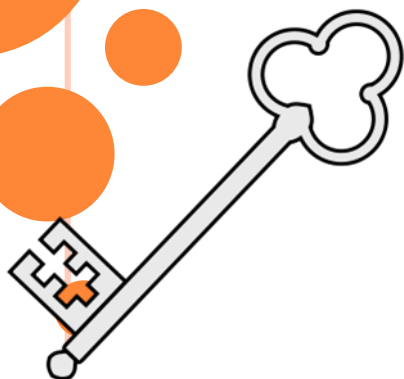
科学技術

「科学と技術の安全・安心」

本授業では、安全とは何か、安心とは何かについて、「災害・事故からの社会システムの安全・安心(科学と技術の安全・安心)」の観点から、自ら努力をして維持することが重要であることを認識するとともに、日常意識をどのように保てばいいのか、自らが考えることで安全・安心が実現できることを理解することを目標とする。

Keyword

科学技術の安全
システムの安全と安心
安全文化と安心



社会科学

「リスク社会と社会科学」

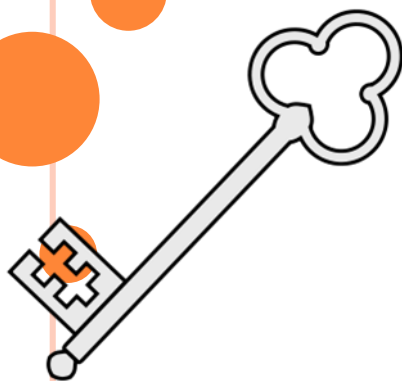
経済社会が発展する中で、リスクや不確実性がもたらすコストや不安を削減するために社会システムがどのような機能や役割を担っているのかを、経済学・経営学・法学などの社会科学的側面から照射することで、リスクに向き合う社会が抱える課題や困難、今後の方向性を理解する。

リスクに対する保険の役割を理解するとともに、私的保険と公的保険の境界・役割分担について、経済学のツールを用いて理解できるようになる。また、保険制度が抱える諸課題や政府等で議論されている社会保障の在り方などについて理解できし、自らの見識や見解を持てるようになることを目的とする。

社会科学

「リスク社会と社会科学」

- ・不確実性とリスクの内容を把握し、リスクに対処する社会制度として保険市場の機能と役割を理解する。
- ・民間保険を対象として保険需要と保険供給の基本的特性を理解する。
- ・民間保険では社会的要請に十分応えられない可能性が存在することを理解するとともに、社会保険が存在する根拠を理解する。
- ・現行の社会保険制度を概観したのち、各社会保険制度が抱える課題を理解する。



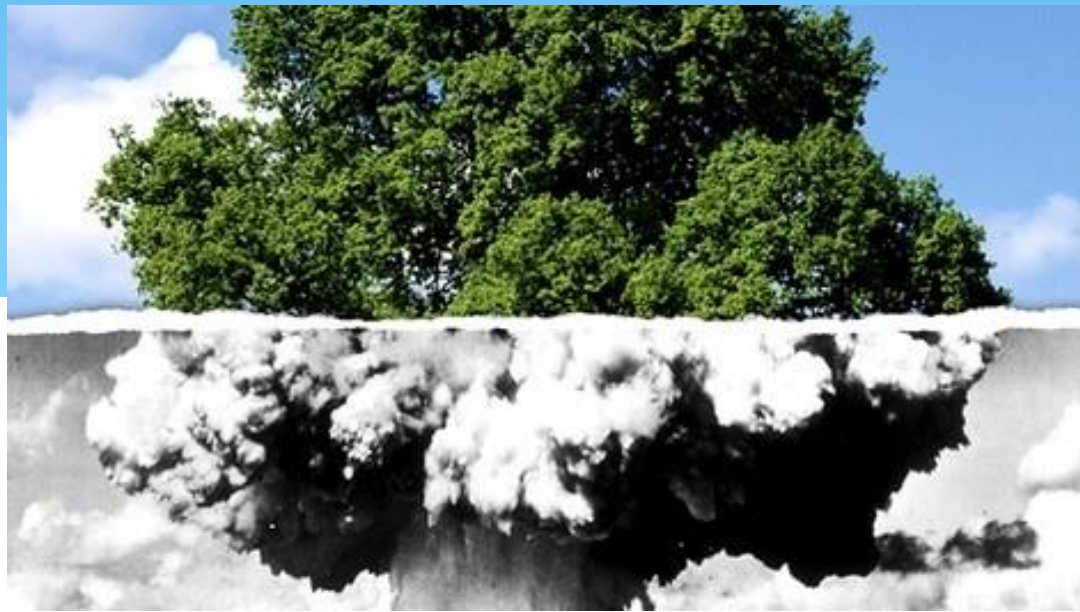
Keyword

リスクと不確実性
保険 社会保障
効率と公平

全学モジュール I 科目

A6. 核兵器のない世界を目指して

中村桂子(核兵器廃絶研究センター(RECNA))





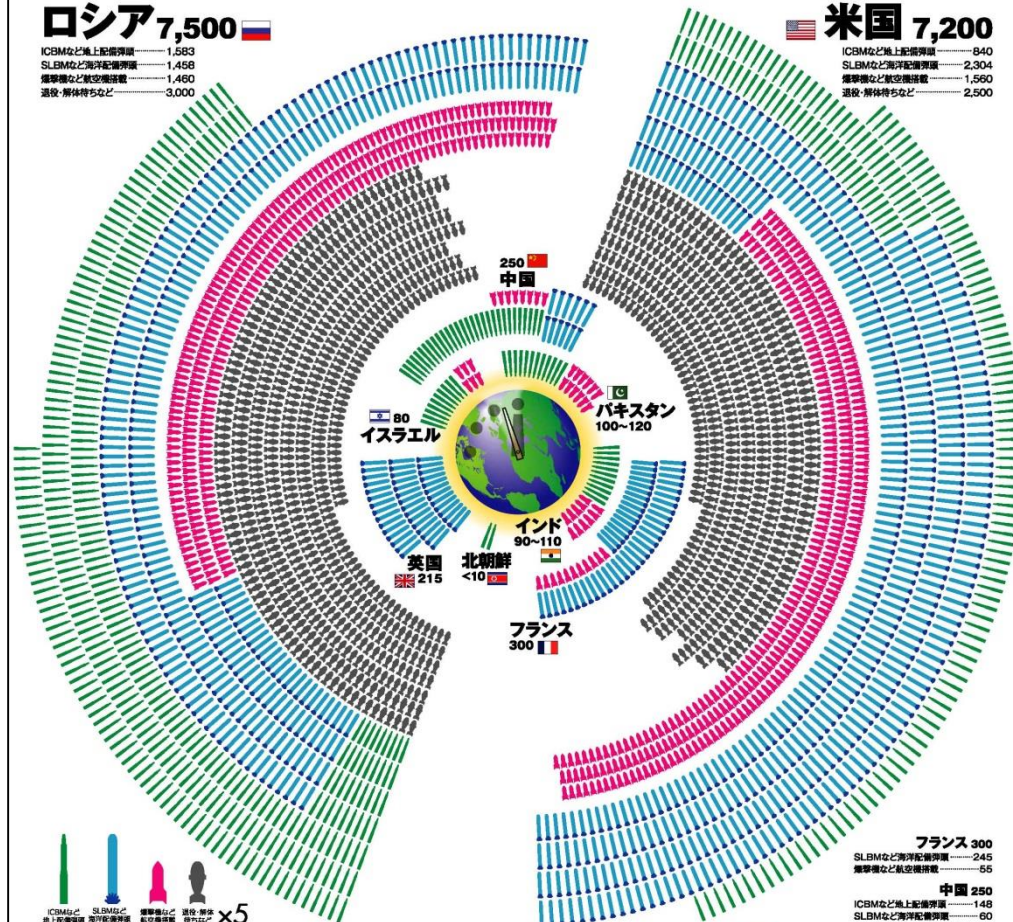
存在する限りは使われる 世界の核弾頭データ 2015.6

ロシア 7,500 

ICBMなど地上配備弾頭 1,583
SLBMなど海洋配備弾頭 1,458
爆撃機など航空機搭載 1,460
遺棄・解体待ちなど 3,000

米国 7,200 

ICBMなど地上配備弾頭 840
SLBMなど海洋配備弾頭 2,304
爆撃機など航空機搭載 1,560
遺棄・解体待ちなど 2,500



 x5

15,700

前年比：-700

世界終末時計
(中央)
Doomsday clock
核戦争などによる人類の滅亡(終末)を午前零時
に近せらる、その終末ま
での残り時間を「電卓ま
であと何分」という形で
象徴的に示す時計。
現在「3分前」。

出典: Bulletin of the
Atomic Scientists

フランス 300
SLBMなど海洋配備弾頭 245
爆撃機など航空機搭載 55

中国 250
ICBMなど地上配備弾頭 148
SLBMなど海洋配備弾頭 60
爆撃機など航空機搭載 40

英国 215
SLBMなど海洋配備弾頭 215

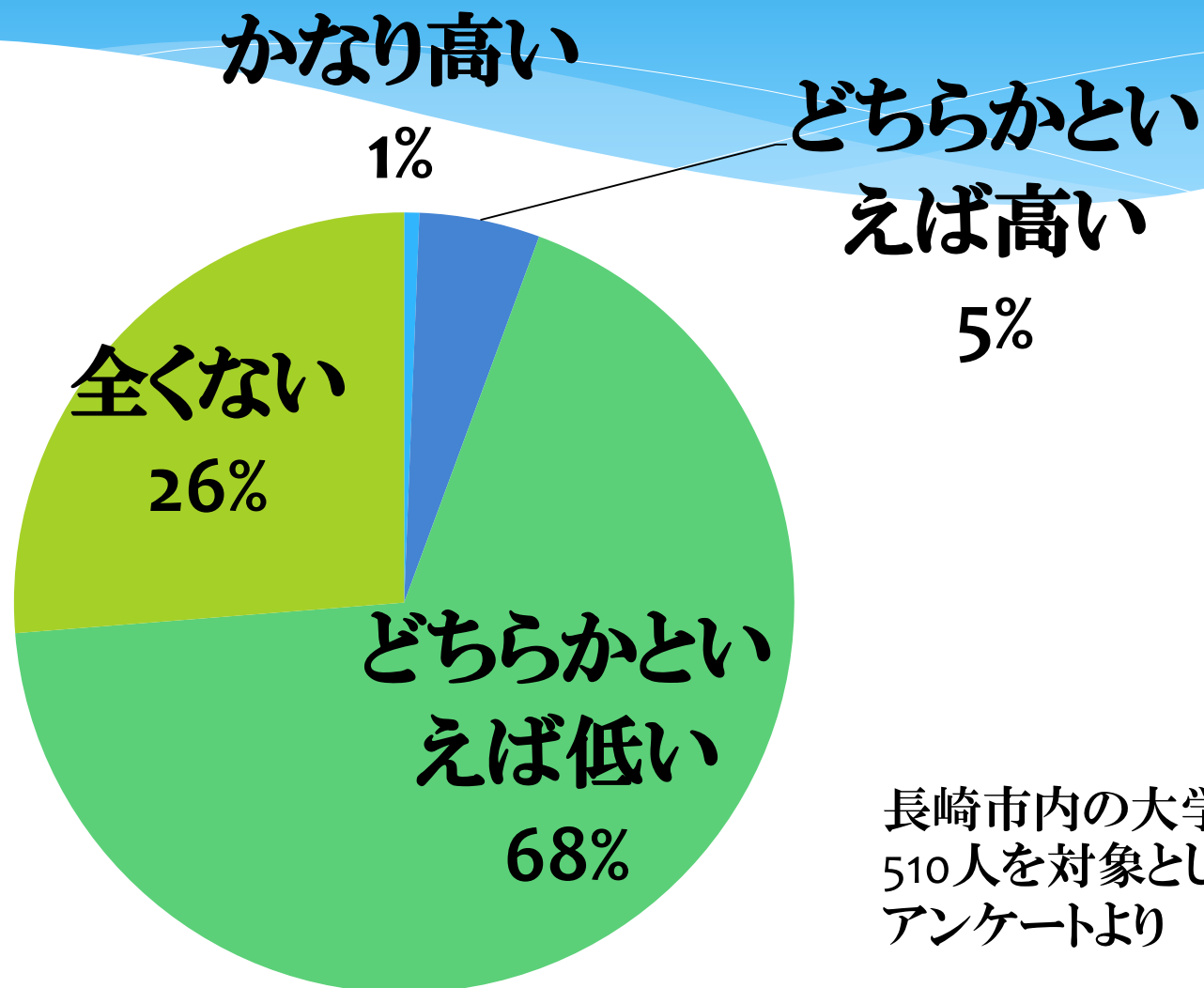
イスラエル 80
ICBMなど地上配備弾頭 50
爆撃機など航空機搭載 30

パキスタン 100~120
ICBMなど地上配備弾頭 60
爆撃機など航空機搭載 40~60

インド 90~110
ICBMなど地上配備弾頭 54
爆撃機など航空機搭載 38~58

北朝鮮 <10
? ICBMなど地上配備弾頭 <10

Q:核兵器がなくなる可能性はどれくらいあると思いますか?



長崎市内の大学生
510人を対象とした
アンケートより

テーマの趣旨

世界から核兵器を廃絶するために必要となる、具体的な知識やアプローチについて、さまざまな角度から学び、考察する。

- 核兵器とは何か、その基本的仕組みや、核兵器をめぐる歴史と世界の現状について基礎知識を得る。⇒「核兵器とは何か」
- 核兵器がなぜ生まれ、今も維持されているのか、その背景にある国際社会の特徴と「平和」を実現するための様々な取組みについて学ぶ。⇒「国際社会と平和」
- 長崎における被爆の歴史、社会への影響について学び、被爆体験の継承の問題について考える力を養う。⇒「被ばくと社会」

皆さんへのメッセージ

広島・長崎の被爆者をはじめ、世界中の市民が核兵器廃絶を訴え続けています。にもかかわらず、被爆から70年が経過した今も、世界には**1万5千発以上**もの核兵器が存在しています。「核兵器のない世界」は、単なる理想や夢物語に過ぎないのでしょうか？

本モジュールでは、そうした素朴な「なぜ？」に答えるとともに、「**過去**」「**現在**」「**未来**」を結びながら、核兵器廃絶への具体的な道のりを皆さんと考えていきたいと思えます。

被爆地・長崎だからこそ学べる、特色あるモジュールです！

A7 暮らしの中の科学

テーマ責任者 藤村誠

カテゴリー	科学/技術の恩恵と限界	モジュール科目区分	全学モジュール I 科目
テーマ名	暮らしの中の科学1		
推奨する全学モジュール II 科目テーマ名	暮らしの中の科学2		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	藤村 誠	責任部局	工学部
趣 旨	<p>自然の偉大さや美しさに驚きや感動を覚えた経験はありませんか？人類は古くから、自然現象を理解しようと多大な努力を重ねてきました。自然現象は、私たちの生命維持に不可欠な食料・資源の源になったり、時には甚大な災いをもたらすこともあります。そのため、私たちは生きていく上で、自然現象を正しく理解していく必要があります。自然科学とは、自然界で起きる様々な事象の法則性を明らかにする学問です。つまり、自然現象をいかに抽象化し、近似するかを模索する学問です。一方、技術とは、それらの成果を巧みに利用して人間社会に役立てるための仕組みを作ることです。自然科学と技術の発展によって、我々の生活はとても豊かになってきました。科学技術の限界や危険性を正しく認識すると共に、謙虚な姿勢で自然現象の真理を見抜く目を養うことは、私たちが暮らしていく中で、とても重要なことです。</p> <p>本テーマでは、高校において修得しておくべき自然科学の内容を、大学生の視点から多面的に意味づけ再整理した上で、科学的な思考法と方法論の基礎を学び、身の回りの生活や先端科学技術と自然科学との関わりを理解していくことを目標としています。</p>		
学生の皆さんへのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・数学や物理、化学、生物が苦手な方も大歓迎です。 ・共通ルール(定義)はしっかり覚える必要がありますが、それ以上の暗記は必要ありません。 ・自然科学を学ぶことは、“自然現象の言語”を学んでいると言えるかもしれません。 		

科目名	担当者名	概要	キーワード
暮らしの中の 情報科学	藤村 誠 小林 透	身の回りの生活環境・社会における 情報科学 、特に情報処理に関する数理科学の基礎を理解する。	離散数学、 情報理論 符号化、 ネットワーク
身の回りの中の 物理科学	多田 彰秀 杉本 知史	身の回りの生活に関わる、力やエネルギー、流れや波などに関する基本法則を学び、それらを利用した身の回りの「 ものの構造 」と 動作原理 を理解する。	力とエネルギー 流れや波 物理に関する基本 法則
環境・生活と 化学	山田 博俊 木村 正成	地球環境や日常生活におけるさまざまな現象や物質の振る舞いを、 原子・分子のレベルから 系統的に理解する。	原子と分子、 環境・エネルギー、 有機生命化学、 医薬品合成

テーマ：教育の基礎（A9）

区分： 全学モジュール I 科目

カテゴリー： 変容する環境とリテラシー

対象： 多文化・経済・薬・水産

2016年度・モジュールテーマ説明会・資料

山岸 賢一郎
(長崎大学教育学部)

「教育の基礎」は、
どんな方にお奨め？

「教育の基礎」は、こんな方にお奨め

- **教員免許状の取得を希望する方**
(多文化、経済、水産の方)
⇒ **受講を!**
(推奨モジュールⅡも)
- **「教育」や「教職」に、強い関心のある方**
⇒ **お奨め**

「教育の基礎」は、
どんな感じ？

こんな授業があります

教育の基礎(モジュール I): 1年・後期

教育原理 ... 免許状取得に関わる

教育心理 ... //

教育行政・制度論 ... //

教育に関する**基礎的事項**について、
考えつつ、学ぶ。

「子どもが学校に通うのは、当たり前？」

たとえば、こんな問い

「道徳の時間、って必要なの？」

「道徳」と言えば...、これ、小・中学校で使ったかも？



小学校1・2年



小学校3・4年



小学校5・6年



中学校

「日本の大学の学費って、高いの？」

教員免許状が欲しい方へ

教員免許状の取得を希望する方へ：幾つか注意

- **簡単に免許状を取得できる、わけではない。**
 - モジュールⅡの「教育相談」も受講する必要あり。
 - **モジュール科目以外の単位も、たくさん必要**。
- **学部によって、取得可能な免許状や、取得までの道のりは、異なる。**
 - **各学部で行われる説明会等**に必ず参加。
- **取得したら必ず先生になれる、わけではない。**
 - 「学校の先生」になるには、各自治体が実施する「**教員採用試験**」に合格する、などの必要。

免許状は必要ないが...、という方へ

「教育」や「教職」に強い関心があれば...

- **受講を歓迎します。**
 - あなたの「興味」「関心」を満たすような、「発見」がある、かも。
- **ただし、次の点は、ご了承ください。**
 - 本テーマは、教員免許状の取得に関わります。よって、**教員免許状の取得のために必要とされる事項を、授業で取り扱わないわけにはいきません。**言い換えると、「こんな内容興味ない」が通用しません。この点、よろしくお願いします。

もう一度。
「教育の基礎」は、
どんな方にお奨め？

「教育の基礎」は、こんな方にお奨め

- **教員免許状の取得を希望する方**
(多文化、経済、水産の方)
⇒ **受講を!**
(推奨モジュールⅡも)
- **「教育」や「教職」に、強い関心のある方**
⇒ **お奨め**

環境をめぐる諸問題

全学モジュール科目案内

カテゴリー	変容する環境とリテラシー	モジュール科目区分	全学モジュール I 科目
テーマ名	環境をめぐる諸問題		
推奨する全学モジュール II 科目テーマ名	環境と社会生活	環境と社会の共生	
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		

環境科学部学生は受講できません



<http://www.idcn.jp/>



<http://www.mofa.go.jp/>

生物多様性を考える

科目名	担当者名	概要	キーワード
生物多様性を考える	井口 恵一郎 吉田 謙太郎 山口 典之	地球上に生息・生育する種々の生物がお互いに競争・共存し、現在の複雑で多様な生態系が危ういバランスの上に成り立っていることを複数の事例を元に理解する。その上で、農業や水産の現状と目指すべき方向を学び、環境問題と食糧確保との関連を様々な視点から議論できる知識と素養を養う。	生物多様性、生態系、生物間相互作用、食糧問題

全学モジュールの 目標および授業編成の視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点			
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)									
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
	自主的探究	自己成長志向	批判的思考	相互啓発志向	自己表現	行動力	社会貢献意欲	日本語力	英語力	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	人文科学の内容を取り扱う	社会科学の内容を取り扱う	現代的な話題を取り入れる	アクティブ・ラーニングの活用
生物多様性を考える	○		◎		○		○				○	◎		◎	◎	



写真 1 : 現地調査



写真 2 : 実験風景



写真 3 : 地元の方との協議

<http://www.env.nagasaki-u.ac.jp/>

都市環境を考える

都市環境を考える	杉山 和一 渡辺 貴史 片山 健介	近代日本のインキュベーターだった長崎の都市環境を皆さんと一緒に考えたい。長崎の都市環境といえば、直ちに斜面市街地における特徴的な景観や、海の見える光景が目に見え、そこでこれに交通面等から接近する。ただ本講座では、広域都市圏を対象とし、都市の持続可能性を求めて、里山や過疎化が進行している郊外地域の生活環境にも目を向ける。のみならず、明治から昭和戦前の華やかなりし長崎の歴史的景観にも思いを馳せ、長崎に紛うことなく、「近代」は来ていたことを確かめる。	都市環境、斜面市街地、里山、過疎地域、歴史的景観
----------	-------------------------	--	--------------------------

全学モジュールの 目標および授業編 成の視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点			
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)									
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
	自主的探究	自己成長志向	批判的思考	相互啓発志向	自己表現	行動力	社会貢献意欲	日本語力	英語力	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	人文科学の内容を取り扱う	社会科学の内容を取り扱う	現代的な話題を取り入れる	アクティブ・ラーニングの活用
都市環境を考える	○		○		○		◎	○		○	○			◎	○	



地球温暖化を考える

地球温暖化を考える	高尾 雄二 河本 和明 富塚 明 和達 容子	温室効果のしくみを学び、それに伴う気象および気候の変化を学ぶ。また関連する国際条約の成立過程や内容について学び、国際間の立場の違いや国際社会への影響について考える。さらに、化石燃料の燃焼に伴い発生する大気汚染やエネルギー問題の現状を学ぶ。これらによって、地球温暖化の防止が技術的かつ国際的に複雑な問題であることを理解し、改善のための手法を提案し、予想される困難を考える。	温室効果、地球温暖化、エネルギー収支、化石燃料、各国の立場
-----------	---------------------------------	---	-------------------------------

全学モジュールの 目標および授業編 成の視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点			
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)									
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
	自主的探究	自己成長志向	批判的思考	相互啓発志向	自己表現	行動力	社会貢献意欲	日本語力	英語力	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	人文科学の内容を取り扱う	社会科学の内容を取り扱う	現代的な話題を取り入れる	アクティブ・ラーニングの活用
地球温暖化を考える	○	○	○	○	○			○		○	◎			◎	◎	◎

講義の方式

- アクティブラーニング方式での講義を行う科目が多いです。
- グループワークがあります。
- 欠席や予習してこなかったりすると、グループメンバーに迷惑がかかります。

カテゴリー「変容する環境とリテラシー」

暮らしに活かす情報技術



上繁義史（ICT基盤センター）



日々「情報」

- **日常生活**では「情報」がいっぱい
- **勉強**でも「情報」がいっぱい
- **仕事**の世界も「情報」がいっぱい





「情報」を制すると世界が見える

- どんな世界も **「情報」** がつきもの
- 何をするにも **「情報」** がモノをいう時代
- **「情報」** を道具にしたいと思いませんか？

MOBILE
PHONE

INFORMATION
TECHNOLOGY

INTERNET

DATA

BUSINESS

COMMUNICATION

目標：「情報」 使えるようになる

- モジュール「暮らしに活かす情報技術」では情報の活用, テクノロジー, セキュリティの視点で3科目を提供

情報の活用

- レポート作り最強テク
- 活かしたデータの見せ方

計算機の科学

- コンピュータとインターネットの裏の裏

情報社会の安全と安心

- 情報社会の脅威の数々
- 安全を守る日々のワザ

目標：「情報」 使えるようになる

- モジュール「暮らしに活かす情報技術」では情報の活用, テクノロジー, セキュリティの視点で3科目を提供

情報の活用

ビジュアル

計算機の科学

テク/ロジー

情報社会の
安全と安心

セキュリティ

情報社会の真実、

次の目撃者はあなたです

暮らしに活かす情報技術

推奨するモジュールⅡテーマ

- 「情報社会を考える」
- 「ICTの仕組みと活用法」



A13 コミュニケーション基礎講座

大学教育イノベーションセンター 當山明華

- コミュニケーション基礎講座

コミュニケーション能力は、社会人の基礎力の中核とされており、大学卒業時に期待される能力の中でも上位に挙げられている。

このようなコミュニケーション能力を高めるためには、普段当たり前に捉えられているコミュニケーション状況を明らかにし、そのうえで自分自身の能力をより実践的・機能的なものにしていく必要がある。

本科目群では、コミュニケーションを理論的に理解し、基礎的な能力を高めつつ、実践力向上を目指す。

⇒スキルの習得のための課題提出の比重が大きいです！

科目構成

科目名	担当者名	キーワード
対人関係の社会学	岡田 佳子 (大学教育 イノベーションセンター)	社会化・家族・ ジェンダー・学校文化・ 階層
メディア・コミュニケーション基礎	深尾 典男 (広報戦略本部)	権力・記号・言説分析・ ポストモダニズム
コミュニケーション 基礎実践	當山 明華 岡田 佳子 若菜 啓孝 (大学教育 イノベーションセン ター)	日本語・批判的読み・ 自己表現・ 情報リテラシー


科目概要

科目名	概要
対人関係の社会学	成長と共に広がる人間関係の中で身についていく思考やふるまい、関係性について理解を深める。また、協同学習を通して人の多様性について考える力を身につける。
メディア・コミュニケーション基礎	日常の様々なメディアの影響力を検討し、社会規範の形成や権力の浸透におけるコミュニケーション過程を理解して生活に活かす。
コミュニケーション基礎実践	日本語の「読み」「書き」およびプレゼンテーションやディスカッション等の基礎的な技能を高める。加えて、ソーシャルメディアの可能性や情報化の光と影などについても理解する。



到達目標

- 社会の動きに関心を持ち、客観的に情報を捕らえて分析できる
- 集めた情報を基に考えをまとめ、他者と建設的・創造的に議論ができる
- 他者との円滑な人間関係の構築方法が理解できる
- 他者の多様な価値観と受容的に関わることができる
- 正しい引用、注記方法を用いて論理的なレポートを書くことができる
- 自分自身で自分の学習の習得状況を確認・分析・評価することができる

- 
- 下記のような人を歓迎します
 - コミュニケーションについて関心のある人
 - 他者と共同して学習を進めていくことに関心のある人
 - 多様な考え方の習得に関心のある人
 - 学修の習慣をつけたいと考えている人

⇒前提となる知識は特に問いません。

大学生として、そして、その後の社会人として必要な基礎的能力の向上を目的としたモジュール科目群となっています。

そのため、自分で考えて表現することが多くなります。たかがコミュニケーション、されどコミュニケーションです。

